

動物科

報告者：橋場 瑠輝

1 課題

本校動物科では非農家出身の生徒が大半を占めている。しかし農業への興味関心は高く、動物だけでなく農業分野全般のプロを志せる生徒が多数在籍している。

変化の激しい時代に指導を行う中で昨今の社会全体のファストコンテンツ化により精読する機会が減り、読解力や表現方法に課題がある。ニワトリを育てるというプロジェクト学習を通して生命との向き合い方を考え、基本的な知識技術を学習し、課題解決学習の基盤を身に付けさせる必要がある。

2 目標

生徒が所有している一人1台端末を活用し、プロジェクト学習の充実を図る。

昨年度の教員アンケートから本校の課題解決学習において「調査・分析方法や実験方法の決定」、「データ等の分析」「結果の考察」がより力を入れて教育する内容として挙げられた。さらに改善には学校全体として取り組むべきであるという意見が8割挙げられた。それらの意見を踏まえ TOKYO デジタルリーディングハイスクール事業におけるセンシングデータと ICT 機器の活用においても充実した授業展開を行うことを目標とし、生徒一人ひとりの表現できる力の育成を目指す。

3 具体的方策

今年度は卵用種のみと比較ではなく肉用種、原種の人工孵化を行い0日齢から飼養し、3品種の違いを生徒へ指導した。家畜化される動物について学習し、人がどのような育種改良を行ってきたのか品種による雛の成長過程の違いから生徒への興味関心を深めさせる指導を行った。各班で管理、観察・記録を行い、得られたデータを各自の ICT 端末でまとめ、グラフに示した。

4 結果

生徒自らが率先して管理を行い、授業外の場面でも観察する様子が見られた。「飼育と環境」の授業では班ごとの活動となり協働的に動く姿勢が見られた。ICT 端末を活用しデータを記録するだけでなく班で生徒たちが意見を共有し得られた内容を言語化する場面がみられた。

5 次年度に向けての課題

3年次の課題研究を見据えて取り組んだ鶏プロジェクト学習であるが毎授業の考察や班員全員が意見を交流する時間を十分に取れなかったことが課題として挙げられる。動物科の生徒を指導していく中で愛玩動物への興味がある反面、「畜産」産業動物への興味をどのように引き出していくかが課題であると個人的に感じる場面があった。将来動物関連産業の先頭に立ち活躍してくれる生徒たちへの指導工夫を重ねていくとともに、ICT 機器をより一層積極的に活用し、知識理解を深め生徒の読解力向上に努めたい。